むらさきの袖をつらねてきたるかな春たつ事は是ぞうれしき

春臨時客をよめる　小辨

むれてくる大宮人は春をへてかはらずながらめづらしきかな

入道前太政大臣大饗し侍ける屏風に、臨時客のかたかきたる所をよめる、　藤原輔尹朝臣

むらさきもあけもみどりもうれしきは春のはじめにきたる也けり

〔二條太皇太后宮大貳集〕臨時客

諸人のまつひきつれてくる宿に春の心はやまにざりける

〔大鏡五太政大臣爲光〕この關白〇藤原頼通殿のひとゝせの臨時客に、あまりゐひて、御座にゐながら、たちもあへ給はで、ものつき給へるにこそ、高名のひろたかがかきたる、樂府の御屏風にかゝりて、そこなはれたれ、〇又見二寶物集一

〔續古事談五諸道〕京極大殿〇藤原師實臨時客ノ日、尊者堀川左大臣〇源俊房ノ隨身敦久六條右大臣〇源顯房前驅盛正ヲ召テ、御衣ヲヌギテタマヒケルヲミテ、通俊民部卿殿ヲオハレザラマシカバ、今日御衣ハタマハラザラマシト云ケレバ、人々ワラヒケリ、

〇

〔中右記〕寛治三年正月三日、於二院御方一〇白河有二臨時客一、先有二拜禮一、攝政殿〇藤原師實以下公卿一列、殿上人一列、盃酌數廻之後御遊、拍子、政長朝臣、

〔榮花物語三十六根合〕皇后宮〇寛子歌合せさせ給、左春、右秋也、〇中略

左勝　臨時客　内の式部命婦

はるたてばまづもろ人もひきつれて萬代ふべきやどにこそくれ

院宮臨時客